Hitachi Koki
POWER TOOLS for PROFESSIONAL

取扱説明書

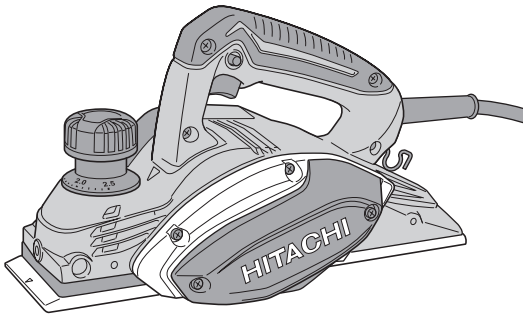
用途
●各種木材の切削
（平削り・相じゃくり・面取り）

二重絶縁

ブレーキ付 **日立かんな**

82mm **P 20SF**[研磨刃式]　**P 20SF(SC)**[替刃式]

このたびは日立かんなをお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



はじめに
電動工具の安全上のご注意 ……1
二重絶縁について ……4
本製品の使用上のご注意 ……4
各部の名称 ……6
仕様 ……6
標準付属品 ……7
別売部品 ……8

準備
ご使用前の準備 ……9
ご使用前の点検 ……10

使い方
基本機能について ……11
切削する ……13
【P20SF】
研磨刃の交換と調整 ……17
【P20SF(SC)】
替刃の交換と調整 ……21
ダストアダプタ（別売部品）の取付け方 …25

その他
保守・点検 ……26
ご修理のときは ……裏表紙

HITACHI

⚠警告、⚠注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
- 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
  （例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。

⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⑥ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⚠警告

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
- 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⑨ 保護メガネを使用してください。
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。
- 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用しない、または、修理する場合。
- 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他、危険が予想される場合。

⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⚠警告

⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、修理をお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

二重絶縁について

電気の流れる所と外観部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されていることを言います。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されていて感電しにくくなっています。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に ⧈ マークで表示してあります。異なった部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。

電気系統の分解、組立や部品の交換はお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、かんなとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
- 表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。

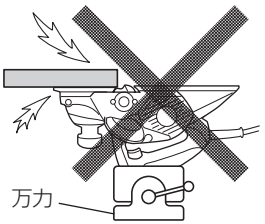
② **直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。**
- 製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

③ **使用中は、機体を確実に保持してください。**
- 確実に保持していないと、けがの原因になります。

④ **切削する材料は、安定性のよい台に置いて作業してください。**
- 台が不安定ですと、けがの原因になります。

⑤ **材料を手に持っての切削はしないでください。**
- かんな刃に触れ、けがの原因になります。

⑥ **機体を万力などで保持して、かんな刃を上向き（定置形）にした使い方はしないでください。**
- かんな刃に手や身体が触れ、思わぬけがの原因になります。



⑦ **使用中は、切粉排出口に指などを入れないでください。**
- 回転しているかんな刃に触れ、けがの原因になります。

⑧ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。**
- そのまま使用していると、けがの原因になります。

⑨ **誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂，変形がないことをよく点検してください。**
- 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

⚠注意

① **かんな刃や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。**
- 確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。

② **かんな刃の取扱いには、手袋、布などで手を保護し、十分注意してください。**
- 不用意に扱うと、切り傷の原因になります。

③ **使用中は、機体の底面に手など身体を近づけないでください。**
- かんな刃に触れ、けがの原因になります。

④ **使用中は、軍手など巻き込まれる恐れのある手袋を着用しないでください。**
- 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

⑤ **ベルトカバーの底面は、ベルトがおおわれていないので、使用中、手などを近づけないでください。**
- ベルトに手が触れ、けがの原因になります。

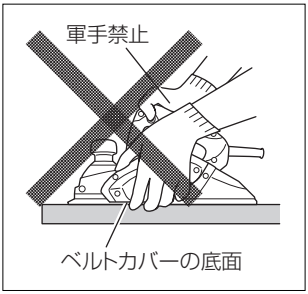
⑥ **かんな刃の交換や刃高調整後は、かんな刃取付け用ボルトを十分に締付けてください。**
- ボルトがゆるむと、思わぬけがの原因になります。

⑦ **スイッチを切った後も、ブレーキで停止するまで回転しているかんな刃に注意してください。**
- けがの原因になります。

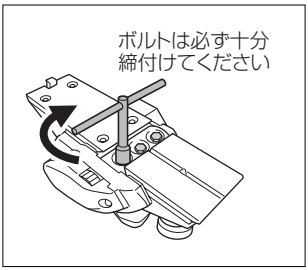
⑧ **高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。**
- 材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

⑨ **回転させたまま、台や床などに放置しないでください。**
- けがの原因になります。

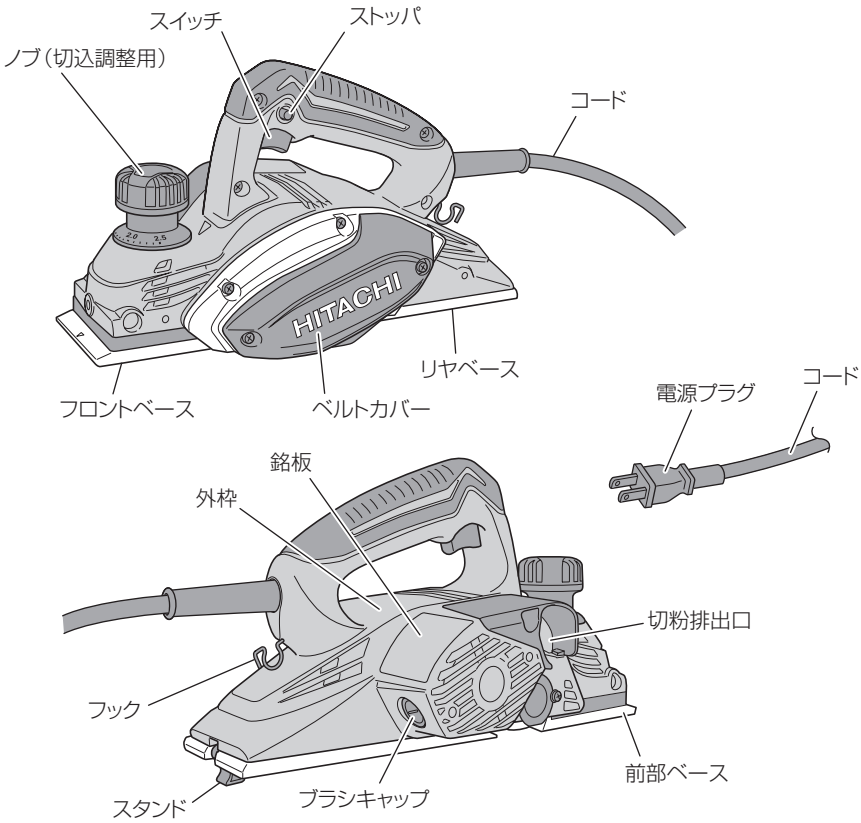
④ ⑤



⑥



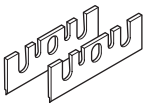
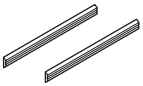
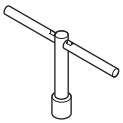
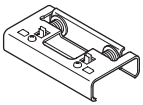
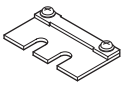
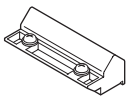
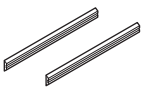
各部の名称



仕　様

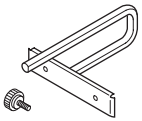
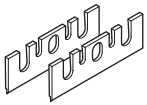
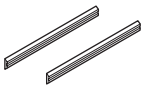
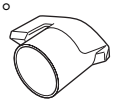
形　　名	P 20SF
使用電源	単相交流　50／60Hz 共用　　電圧 100 V
モータ	単相直巻整流子モーター
全負荷電流	6.3 A
消費電力	600 W
切削幅	82 mm
無負荷回転数	17,000 min^{-1} {回／分}
最大切込み深さ	2.6 mm
質量	2.5 kg（コードを除く）
コード	2心キャブタイヤケーブル　2.5 m

標準付属品

品　　名	P 20SF	P 20SF(SC)
研磨刃式かんな刃(高速度鋼チップ付 2 枚) 	1 組 (本体装着)	—
替刃式かんな刃(2 枚) 	—	1 組 (本体装着)
ボックススパナ 	1 個	1 個
セットゲージ (P 20SF用) 	1 個	—
セットゲージ (P 20SF(SC)用) 	—	1 個
刃とぎ保持具 	1 個	—
替刃式かんな刃(予備用 2 枚) 	—	1 組

別売部品（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

詳しくは、お買い求めの販売店または日立工機の全国営業拠点（裏表紙参照）にお問い合わせください。

ガイド（止めねじ付） 	**かんな刃（高速度鋼チップ付 2 枚入り）** **かんな刃（超硬チップ付 2 枚入り）** 
替刃式かんな刃（ 2 枚入り） 	**ダストアダプタ** 集じん機、ダストバッグ、エルボを使用する場合に使用します。 （P 25 参照） 
エルボ 	**ダストバッグ**

ご使用前の準備

●作業場は整頓をし、明るくしてお使いください

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

●延長コードを使う場合

⚠警告

延長コードは損傷のないものを用意してください。

電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードをご使用ください。

右表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。

コードの太さ（mm²）	最大の長さ（m）
1.25	15
2	25
3.5	45

●作業台（木製）を用意します

かんな作業に合った、しっかりした作業台をご用意ください。
作業台がぐらぐらしていますと危険です。
作業台は安定した状態に設置してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前の点検

1 スイッチが切れていることを確かめる

- スイッチが入っている（連続運転の状態になっている）のを知らずに、電源プラグをコンセントにさし込むと、不意に動き思わぬけがの原因になります。
- スイッチを引き、ストッパがはずれていることを確認してください。（P 11「スイッチの操作について」参照）

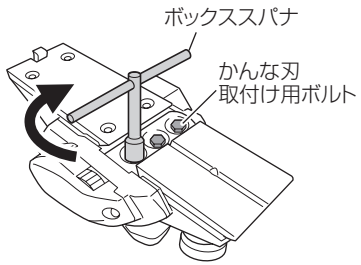
2 電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。

また、直流電源、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

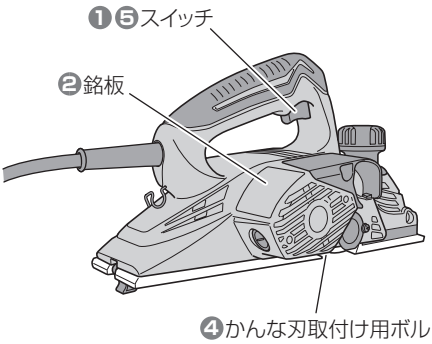
3 かんな刃の締付けを確かめる

付属のボックススパナで、かんな刃取付け用ボルトを締付けてください。



⚠警告

使用前に次のことを確認してください。手順❶〜❹については、電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。



4 コンセントを確かめる

コンセントがガタついたり、電源プラグが抜けるようだと修理が必要です。

そのまま使用すると危険です。電気工事店にご相談ください。

注 ブレーキが正常に作動しない場合は、ただちに使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

5 ブレーキがかかることを確かめる

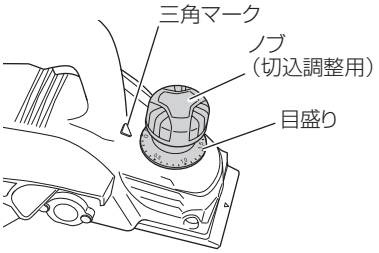
この機体はスイッチを切ると同時に、かんな刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。

ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

基本機能について

●切込み深さの調整方法

ノブを回し、目盛りを三角マークに合わせます。切込み深さは０～２.６㎜まで調整できます。

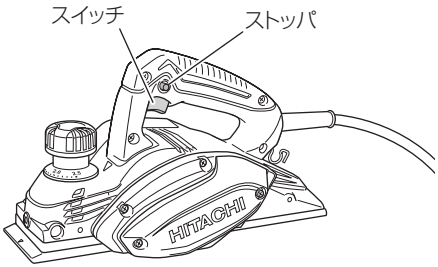


●スイッチの操作について

スイッチは引くと入り、はなすとスイッチが切れます。

スイッチをいっぱいに引いた状態でストッパを押すと、スイッチから指をはなしても入ったままになり、連続運転になります。

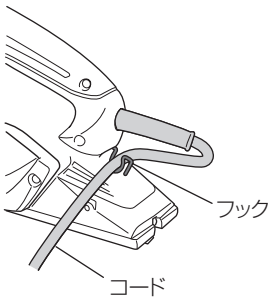
切るときは再びスイッチを引くと、ストッパがはずれ、スイッチから指をはなすとスイッチが切れます。



●フックの使い方

ハンドル後部のコード出口の下にフックが付いています。

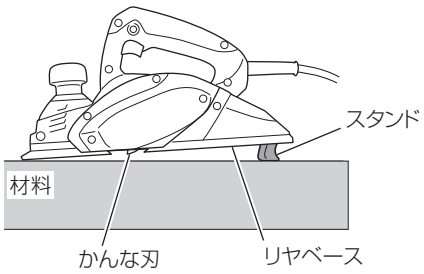
作業により、コードがじゃまになる場合、コードを引っ掛けて、コードの向きを変えることもできます。



●スタンドの使い方

機体のリヤベースを上げると、スタンドがリヤベースの下に出てきます。

スタンドを出した状態で置くことで、かんな刃が不用意に材料と接触して傷をつけることを防ぎます。



⚠警告

- **作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **使用中に異常音や異常振動など機体の調子に異常を感じたときは、直ちにスイッチを切り、点検・修理に出してください。**
- **回転中のかんな刃には手や身体を近づけないでください。**
- **使用中は、軍手など巻き込まれる恐れのある手袋を着用しないでください。**
  回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- **切断中に機体をこじったり、強く押しすぎないでください。本体をまっすぐに静かに進めるようにしてください。**
  反発力を受け、けがの原因になります。また、モーター部に無理がかかるとともに、かんな刃の寿命を短くします。
- **かんな刃を上向き、横向きにした使い方は絶対にしないでください。**
  けがの原因になります。

⚠注意

- **運搬は、必ずかんな刃の動きが止まってからにしてください。**
  かんな刃に衣類などが巻き込まれるなど、けがの原因になります。
- **運搬時には、スイッチから指をはなしてください。**
  不意にスイッチが入り、けがの原因になります。
- **回転するかんな刃にコードを接触させないでください。**

注
- **作業の負荷を急激に変化させないでください。**
  かんな刃やセットプレートの損傷をまねく恐れがあります。
- **材料に釘や異物（ワニス、ペンキ、小石、土ぼこり、砂など）が付着していないことを確認してください。**
  かんな刃の損傷や異常摩耗をまねく恐れがあります。

●平削り

⚠警告

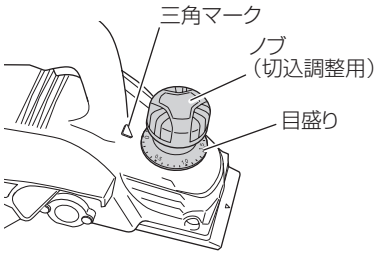
切込み深さを調整する際は、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠注意

かんな刃が材料に触れた状態でスイッチを入れると、けがの原因になります。

1 切込み深さを調整する

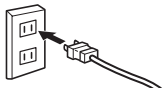
ノブを回し、目盛りを三角マークに合せます。切込み深さは0～2.6㎜まで調整できます。
（目盛りの単位は ㎜ です。）



荒削りの場合：
切込みを深くして能率的に削りますが、削りくずがつまらずに、きれいにとび出すように送りの速度を加減してください。

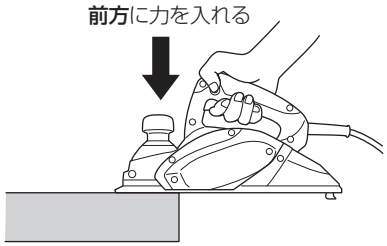
仕上げ削りの場合：
切込みを浅くし、送りを遅くするときれいな面が得られます。

2 電源プラグをコンセントにさし込む



3 フロントベースを木材にのせ、かんなを平らに支える

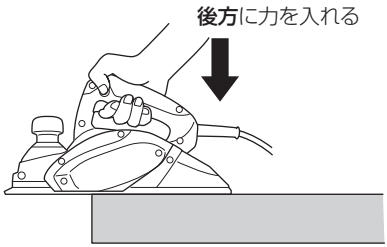
かんな刃が材料に触れない位置で、フロントベースを材料にのせ、前の方に力を入れます。



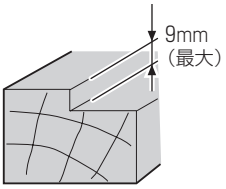
4 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

かんな刃が材料に触れない位置で、スイッチを入れて、一定の速度で前方に進めます。

削り終わりには後の方に力を入れて、完全に削り終わるまで、機体を平らに動かしてください。

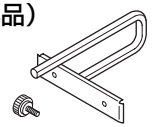


●相じゃくり作業（段差をつける）



相じゃくり作業は、別売部品のガイドを使用してください。

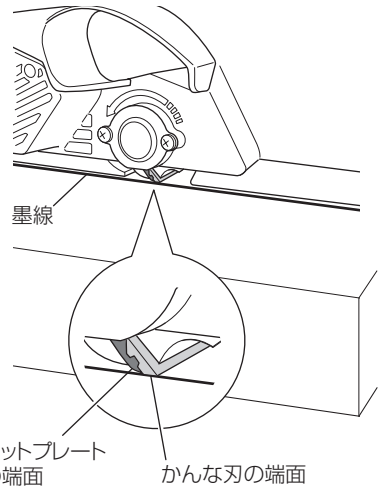
ガイド（別売部品）



1 かんな刃の端面を墨線に合わせる

木材の削りたい幅の位置に墨線を書き、かんな刃の端面を墨線に合わせます。

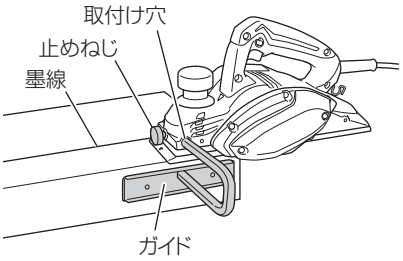
注 セットプレートの端面からかんな刃の端面が少し出ていることを確認してください。



2 ガイドを取付ける

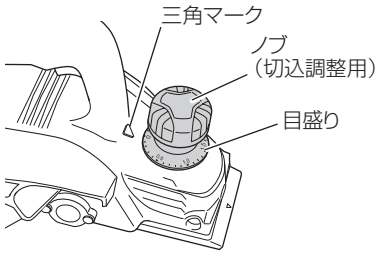
ガイドを機体前部の取付け穴よりさし込み、木材の側面に突き当てて、その位置で止めねじをしっかり締付けて固定してください。

注 ガイドは、木材の側面に確実に当て切削してください。
すき間のある状態で切削しますと削り幅がバラツキます。



3 切込み深さを調整する

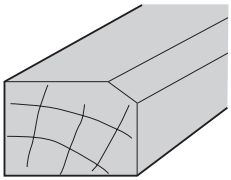
相じゃくり深さの最大は 9 ㎜です。1回の最大切込み深さは、2.6 ㎜ですので、必要とする深さまで数回に分けて削ってください。



注 相じゃくり作業は、進行方向に対して機体の右側で行ってください。
左側では、機体のベルトカバーに材料があたり、深さがでません。

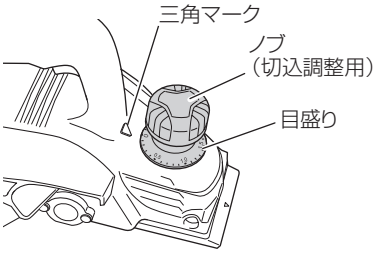
●面取り作業（木材の角をとる）

機体のフロントベースの中央にあるＶ溝を木材の角に合わせ、図のように傾けて削ると、面取り作業ができます。



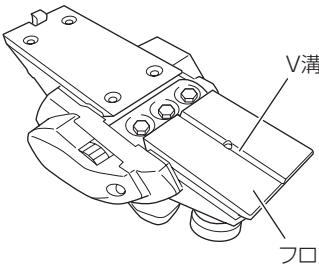
1 切込み深さを調整する

ノブを回し、目盛りを三角マークに合せます。
（目盛りの単位は ㎜ です。）

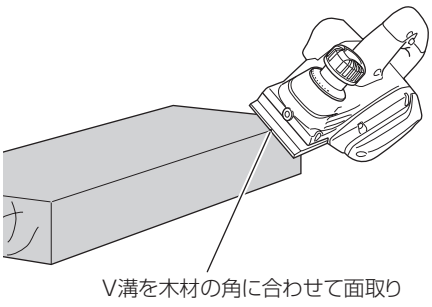


2 Ｖ溝を木材の角に合わせる

機体のフロントベースの中央にあるＶ溝を木材の角に合わせ、図のように傾けて削ると、面取り作業ができます。



Ｖ溝を木材の角に合わせ、角度を保って、ゆっくりと機体を前にすすめます。



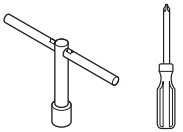
研磨刃の交換と調整

●研磨刃の取りはずし

注 **研磨刃を研ぎ出しするとき、新品と交換するときは、必ず 2 本同時に行ってください。**

研磨刃の交換は、付属のボックススパナとお手持ちのプラスドライバーを使用します。

ボックススパナ
プラスドライバー

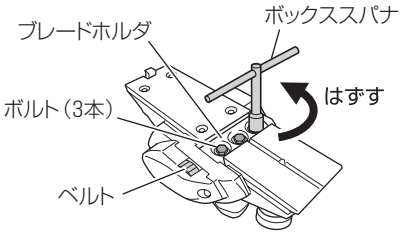


⚠警告

- **研磨刃の交換や調整を行うときは、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  思わぬ事故の原因になります。
- **研磨刃の交換や調整は、安定した台や床の上で行ってください。**
- **ボルトの着脱は、付属のボックススパナで作業してください。**
  付属以外の工具を使用すると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

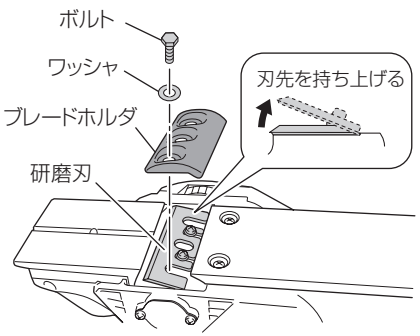
1 ボルトをはずす

ベルトを回してボルトをゆるめやすい位置にします。
ブレードホルダを固定しているボルト（3 本）をボックススパナではずします。



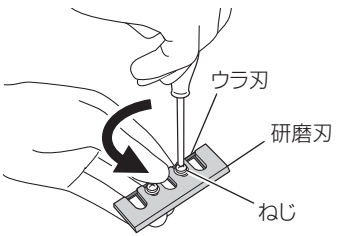
2 ブレードホルダと研磨刃を取りはずす

研磨刃は刃先を持ち上げるようにすると簡単にはずせます。



3 研磨刃からウラ刃を取りはずす

ねじ（2 個）をお手持ちのプラスドライバーでゆるめてウラ刃をはずします。



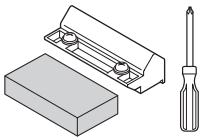
研ぎ出しするときは、P 18 へ
刃高を調整するときは、P 19 へ

●研磨刃の研ぎ出し

付属の刃とぎ保持具に研磨刃を取付けて、２枚同時に同じ刃先角度で研ぐことができます。

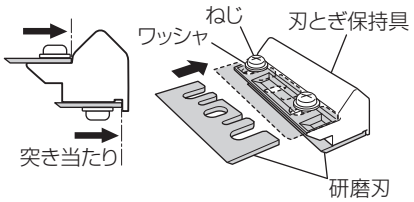
研磨刃の研ぎ出しは、付属の刃とき保持具とお手持ちのプラスドライバー、トイシを使用します。

刃とぎ保持具
プラスドライバー
トイシ



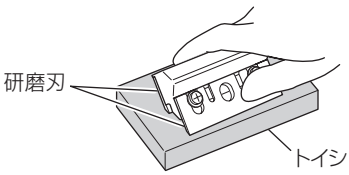
1 刃とぎ保持具に研磨刃を取付ける

ねじ（４本）をゆるめ、ワッシャの下に研磨刃の溝をさし込みます。
研磨刃を刃とぎ保持具の壁に突き当てながら、ねじをしっかりと締めます。



2 研磨刃を研ぎ出す

２枚の研磨刃の刃先面が同時にトイシにあたる角度で研ぎ出してください。



研磨刃をカッタブロックに取付ける前に、P 19 の「研磨刃の刃高調整」を必ず行ってください。

⚠注意

研磨刃を研ぎ出すときは、手袋、布などで手を保護してください。
思わぬけがの原因になります。

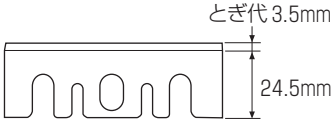
注 **研磨刃は常に手入れして、切れ味のよい状態で使ってください。**
機体に無理をかけずに、効率よくきれいな仕上げ面が得られます。

刃とぎ時期

木材の種類、切込み深さなどにより異なりますが、目安として 500 m前後削りましたら、研ぎ直してください。

研磨刃のとぎ代

とぎ代は 3.5 mmあります。
研磨刃のたけが 24.5 mmになるまで、研ぎ直しをして使用できます。



注 • **お手持ちの水トイシを使用する場合は、水トイシを２～３分、水に浸してから使用してください。**
• **トイシは使用しますと、へこみができますので、ときどき面を平らに修正してください。**

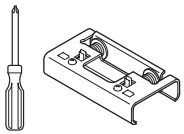
使い方

●研磨刃の刃高調整

研磨刃を研ぎ出ししたり、新しい研磨刃にしたときは、以下の手順で刃高を調整してください。

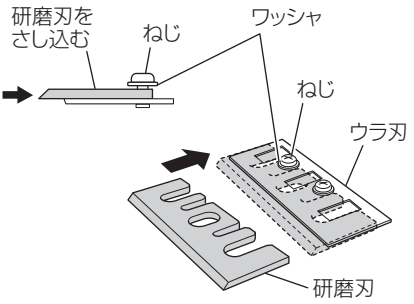
研磨刃の刃高調整は、付属のセットゲージとお手持ちのプラスドライバーを使用します。

セットゲージ
プラスドライバー



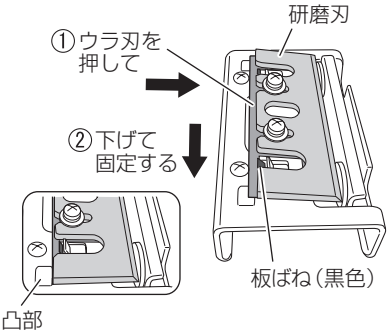
1 研磨刃にウラ刃をさし込む

研磨刃をウラ刃に付いているねじ、ワッシャの間にさし込みます。
ねじはゆるめたままにします。



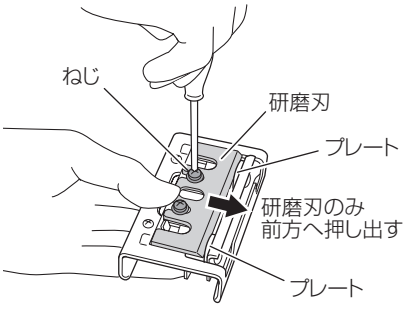
2 セットゲージに研磨刃を取付ける

ウラ刃の穴をセットゲージの板ばねに押し当てながら、ウラ刃の後部をセットゲージの凸部との間に挟みこみます。



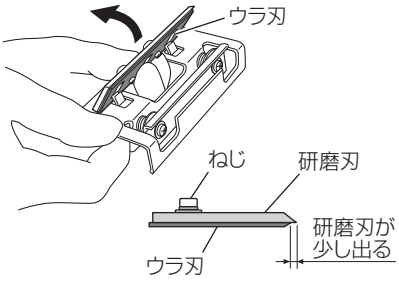
3 刃高を調整する

研磨刃を前方へ押し出し、セットゲージのプレートに押し当てた状態で、ねじを締付けます。



4 研磨刃をセットゲージから取りはずす

セットゲージの裏側からウラ刃を押し出すと簡単に取りはずせます。
完了した研磨刃がウラ刃より少し出ていることを確認してください。

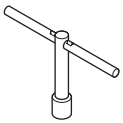


●研磨刃の取付け

研磨刃を取付ける前に、必ず刃高を調整してください。

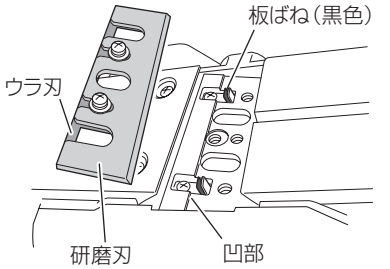
研磨刃の取付けは、付属のボックススパナを使用します。

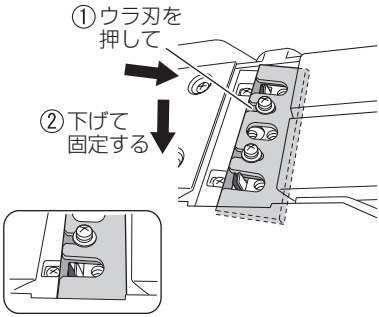
ボックススパナ



1 カッターブロックに研磨刃を取付ける

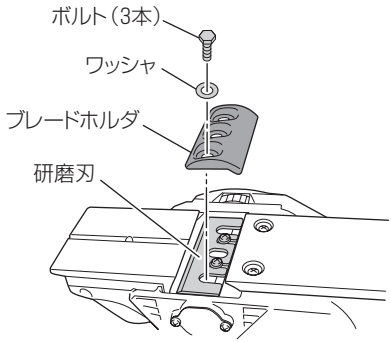
P 19 ❷のセットゲージに研磨刃を取付ける要領とほぼ同じです。
カッターブロックの板ばねにウラ刃の穴を押し当てながら、ウラ刃の後部をカッターブロックの凹部との間に挟みこみます。

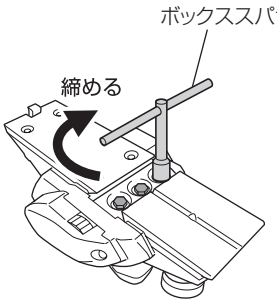




2 ブレードホルダを取付ける

ブレードホルダをかぶせ、ボックススパナでボルト（3本）を十分に締付けます。





使い方

【P 20SF(SC)】
替刃の交換と調整

●かんな刃(替刃)を交換
●刃の出張り量の調整

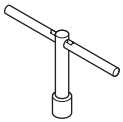
⚠警告

- **替刃の交換や調整を行うときは、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  思わぬ事故の原因になります。
- **替刃の交換は、安定した台や床の上で行ってください。**
- **ボルトの着脱は、付属のボックススパナで作業してください。**
  付属以外の工具を使用すると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

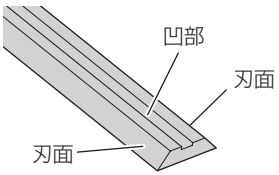
●替刃の交換

替刃は 1 本に刃面が 2 面あります。1 面が磨耗しましたら、刃面を替えてください。1 本の両面が磨耗したときは、新品と取替えてください。
替刃の交換は、付属のボックススパナを使用します。

ボックススパナ



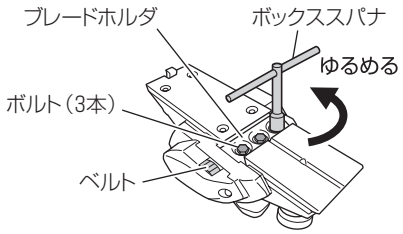
注 **替刃の刃面を替えるとき、新品と交換するときは、必ず 2 本同時に行ってください。**



取りはずし方

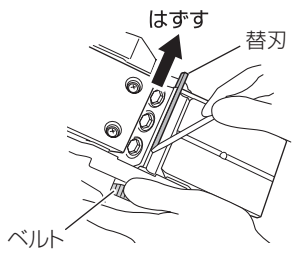
1 ボルトをゆるめる

ベルトを回してボルトをゆるめやすい位置にします。
ブレードホルダを固定しているボルト(3 本)をボックススパナでゆるめます。



2 替刃を取りはずす

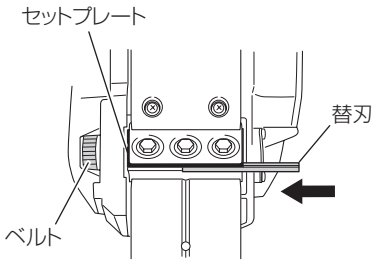
ベルト側よりドライバーの先端などで押して取りはずします。



1 替刃を取付ける

替刃取付け部周辺に付いている削りくずをきれいにふきとります。

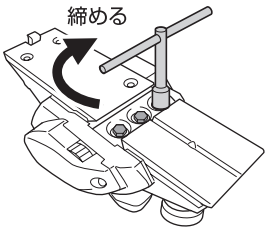
ベルトを回して替刃を取付けやすい位置に、セットプレートを移動させます。ベルトの反対側より、セットプレートの凸部に合わせて替刃を挿入します。



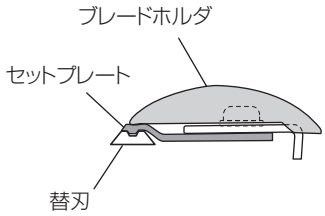
2 ボルトを固定する

下の 注 2 件の状態になっていることを確認しながら、替刃がずれない程度まで手でボルト（3 本）を仮締めします。

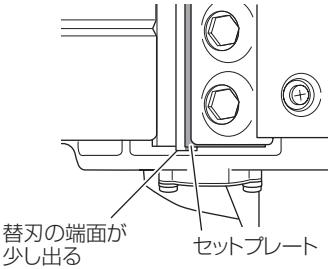
替刃の位置が正しいことを確認してからボックススパナでボルトを十分に締付けます。



注 セットプレートの凸部と替刃の凹部がかみ合っていることを確認してください。



注 切粉排出側のセットプレート端部から替刃の端面が少し出ていることを確認してください。

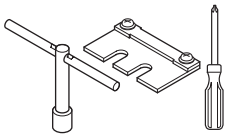


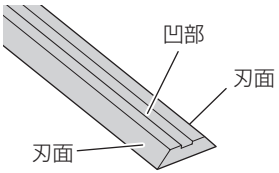
●替刃の刃高調整

工場出荷時に刃高調整されており、調整の必要はありません。

万一、刃先がベースの面より極端に出過ぎていたり、引っ込んでいる場合は、以下の手順で調整してください。替刃の刃高は、付属のボックススパナ、セットゲージおよびお手持ちのプラスドライバーを使用します。

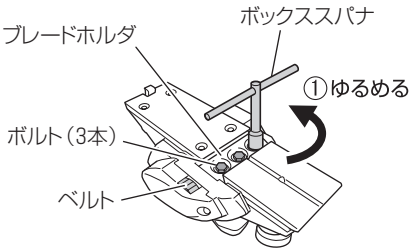
ボックススパナ
セットゲージ
プラスドライバー

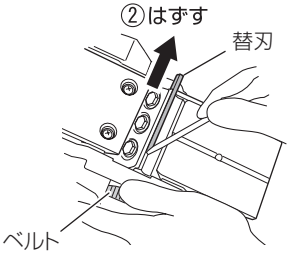




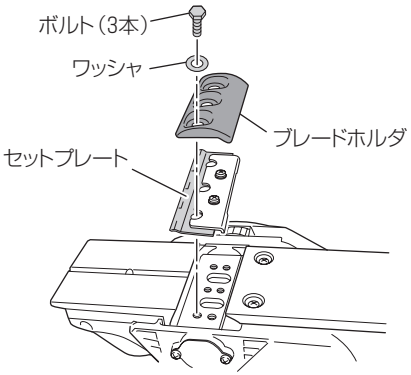
1 替刃を取りはずす

P 21 ❶❷の手順で替刃を取りはずします。



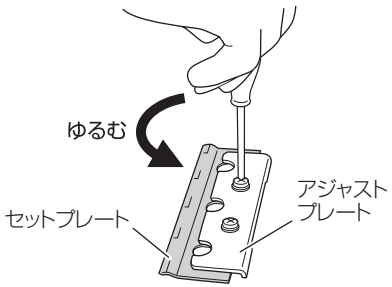


2 ボルト、ブレードホルダとセットプレートを取りはずす



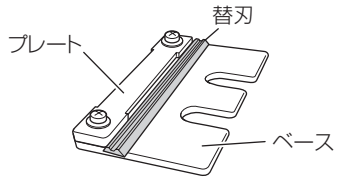
3 固定ねじをゆるめる

セットプレートの固定ねじをゆるめてアジャストプレートが動けるようにします。



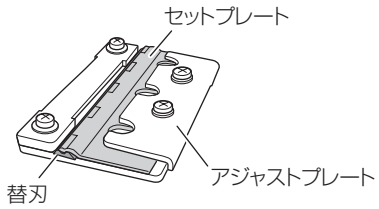
4 替刃をプレートに合わせる

替刃を標準付属のセットゲージのベース上に置き、刃先全体をプレートに接するようにします。



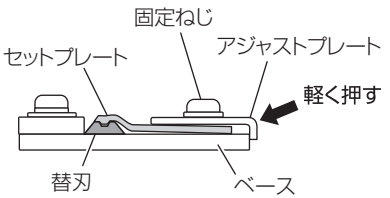
5 セットプレートを載せる

替刃の凹部にセットプレートの凸部を載せます。



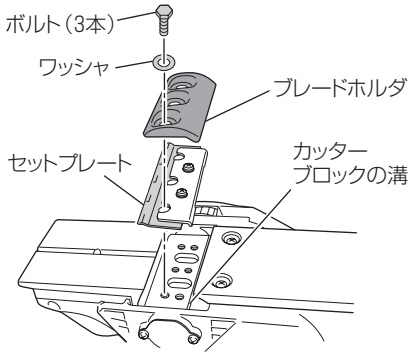
6 調整する

アジャストプレートの端をベースの側面に当て、アジャストプレートを替刃の刃先に向かって軽く押しながら固定ねじをしっかりと締付けてください。



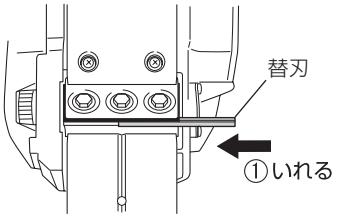
7 セットプレートとブレードホルダを取付ける

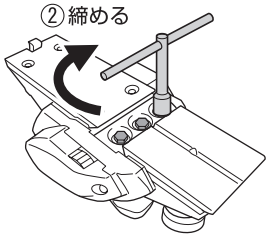
セットプレートをカッターブロックに溝に合わせて取付け、ブレードホルダをかぶせてボルトで軽く取付けます。



8 替刃を取付ける

P 22 ❶❷の手順で替刃を取付けます。





ダストアダプタ（別売部品）の取付け方

⚠警告

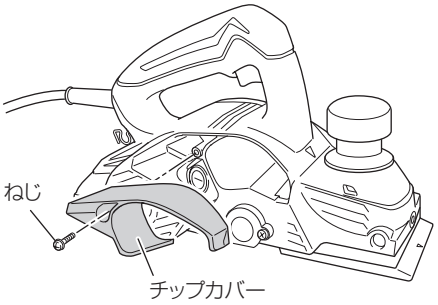
ダストアダプタの取付け、取りはずしの際には、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

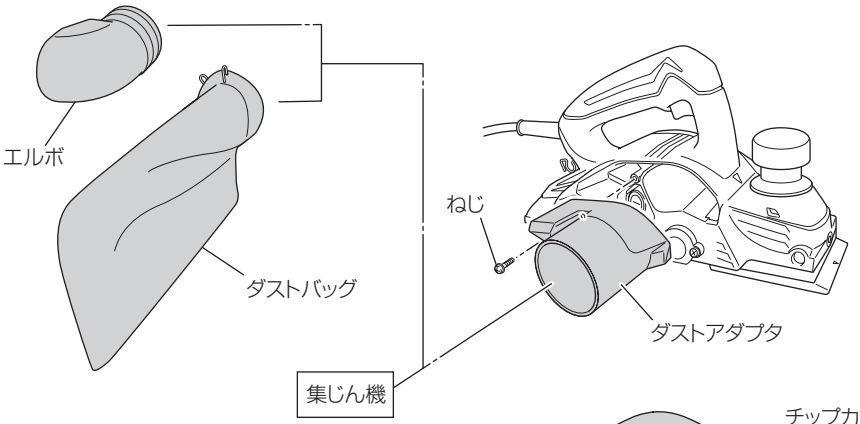
ダストアダプタは、下記に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。

集じん機やエルボ、ダストバッグと接続する際、別売のダストアダプタを取付けて使用します。

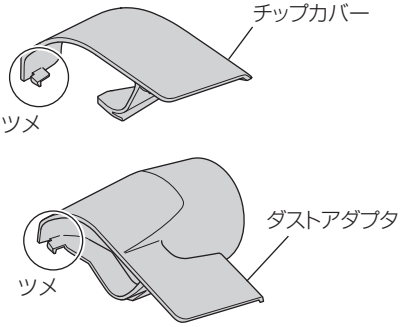
1 チップカバーをとめるねじをお手持ちのプラスドライバーではずし、チップカバーを取りはずします。



2 ダストアダプタを取付け、ねじで締付け固定します。



注 **チップカバー、ダストアダプタの取付け、取りはずしの際は、ツメを折らないよう気を付けてください。**



保守・点検

⚠警告

点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●かんな刃の点検

切れ味が悪くなったまま使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。また、仕上がりが悪くなりますので早めに目立てするか、新品と交換してください。

⚠警告

切れ味の悪くなったかんな刃はそのまま使用しないでください。
無理して使用すると、切削時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

●取付ねじ・ボルトの点検

時々点検して、ゆるんでいたら、締直してください。
そのまま使用すると危険です。

●お手入れする

工具本体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

●かんな刃のまわりの掃除

特に湿った木材を削ったあとは、切粉排出口やかんな刃のウラ刃の部分などに付着した切粉をきれいに取除いてください 。

●モーター部の取扱について

モーター部（P 6「各部の名称」参照）の巻線は工具本体の重要な部分です。
巻線にキズ、洗油および水をつけないよう十分に注意してください。

注 **ごみやほこりを排出するため、定期的に、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をハウジング後方の風穴から吹き込んでください。**
モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

●前部のベースなどの取扱いについて

フロントベース、リヤベースおよびノブ（切込調整用）の取付け部は、特に高い精度を必要とする所ですので、入念に加工してあります。
乱暴な取扱いをして、この部分をぶつけたりしますと、精度がくるい、切削作業に支障をきたすことがありますので、取扱いには十分ご注意ください。

●作業後の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

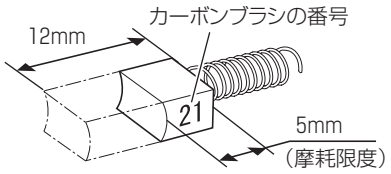
注
- **お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。**
- **軒先など雨がかかったり、湿気のある場所には保管しない。**
- **温度が急変する場所、直射日光の当たる場所には保管しない。**
- **引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。**

●カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度（5㎜ぐらい）になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

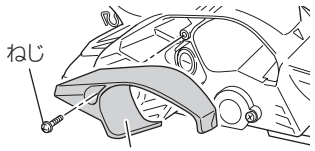
注
- **新品のカーボンブラシと交換の際は必ず図示の番号（21）の日立カーボンブラシをご使用ください。**
  指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。
- **新品交換後の運転でカーボンブラシから臭いが出ますが、故障ではありません。**
  5分間ほど無負荷運転をすることによって、臭いは少なくなります。



●カーボンブラシの交換方法

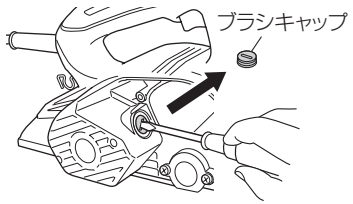
1 チップカバーをはずす

プラスドライバーでねじをはずし、チップカバーをはずします。

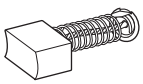


2 ブラシキャップをはずす

マイナスドライバーなどでブラシキャップを反時計方向に回してはずします。



3 カーボンブラシを取出す

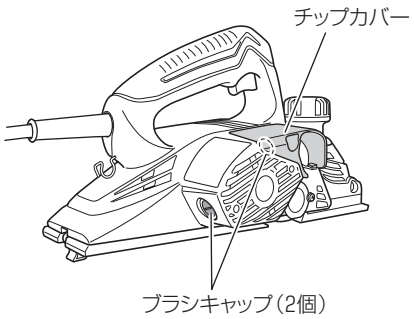


4 新しいカーボンブラシを取付ける

ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。

5 ブラシキャップを取付ける

ブラシキャップでカーボンブラシを押さえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。



メ　モ

メ　モ

ご修理のときは

この製品は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自身で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。
ご不明のときは、下記の全国営業拠点にご相談ください。また、部品ご入用の場合や取扱いでお困りの点などについても、ご遠慮なくお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　月　日	製造番号(NO.)
販売店（TEL）	

全国営業拠点

■ 日立工機電動工具センターへのご用命は、下記の営業拠点にお問い合わせください。

北海道支店	TEL(011)896−1740(代)	〒004−0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2番20号
東北支店	TEL(022)288−8676(代)	〒984−0002 仙台市若林区卸町東3丁目3番36号
関東支店	TEL(03)5783−0608(代)	〒108−6020 港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
中部支店	TEL(052)533−0231(代)	〒451−0051 名古屋市西区則武新町1丁目32番16号
北陸支店	TEL(076)263−4311(代)	〒920−0058 金沢市示野中町1丁目163番
関西支店	TEL(0798)37−2665(代)	〒663−8243 西宮市津門大箇町10番20号
中国支店	TEL(082)504−8282(代)	〒730−0826 広島市中区南吉島2丁目3番7号
四国支店	TEL(087)863−6761(代)	〒760−0078 高松市今里町1丁目28番14号
九州支店	TEL(092)621−5772(代)	〒813−0062 福岡市東区松島4丁目8番5号

「電動工具お客様相談センター」　0120 - 208822（フリーダイヤル・無料）
※携帯電話からはご利用になれません。　（土・日・祝日を除く 午前9：00 ～ 午後5：00）
電動工具ホームページ──http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社
〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号（品川インターシティA棟）
国内営業本部　TEL（03）5783 - 0626（代）

部品コード　C99200601　F